

「豊後・豊前当山派修験分布」

— 日出町「蓮花院文書」による —

佐藤 暁

この「豊後・豊前当山派修験寺院分布」表は、大分県速見郡日出町須崎の蓮華寺の修験文書を資料としてまとめたものである。蓮華寺文書は、大別して「修験人別帳」「堂塔書上帳」「寄進状」「醍醐三宝院達書」「大峯山入峰関係文書」および「豊前・豊後の修験者の口上書」「その他の書簡」の七種に分類され、さらに「寺院建築の修理関係の帳簿」が数点ふくまれている。この文書の発見は、昭和五十二年夏に院主の金丸有玄師が、同院の土蔵を整理中発見され、報者に知らされ、以後、金丸有玄師の許可をえて整理解説中のものである。

蓮華寺は江戸時代日出藩の祈禱寺として愛宕山円海寺と称していた。寛政九年に日出藩士二宮六郎兼善が編纂した「凶

跡考」によれば、慶長年中、日出藩初代の木下延俊が、日出町大字大神字番匠にあった寺院を須崎に移し祈禱寺として建立したという。

その後、四世院主養範法印の時の天和二壬戌八月十五日に攝州丹生寺より丹生山妙要寺の宿を金子百両で譲り受け、以後、豊後全域と豊前宇佐郡を含む領域の当山派袈裟頭として明治維新まで執行し、蓮花院と院号で称せられていた。ところで、最近「山岳宗教史研究叢書」が名著出版より出版され、修験道史の研究が盛り上って来ている感もあるが、醍醐三宝院関係の当山派修験史料は極めて乏しい感があるようである。そこで非力ではあるが、「大分県日出藩史料」の二十四巻より二十六巻までに「豊前豊後当山派修験袈裟頭蓮華院文書」を三巻まで発表した。この表はその作成中に生れたものである。作成にあたって「天明七年」の欄は「天明七年、豊後国七郡豊前宇佐郡当山派修験人別改帳」によった。「寛政二〜三年」の欄は「寛政二年 杵築領 修験人別御改帳」「寛政三年 鶴見嶽帳本大勝院書上帳」「寛政三年 豊後国日田郡中城村山本院 修験書上帳」「寛政三年 豊前宇佐郡猿渡村帳本光明院、修験人別書上帳」「寛政三年 豊後佐伯帳本殿

若院行意 当山派修驗人別改」「寛政三年 豊後国大分郡当山派修驗新旧改帳」「肥後領豊後大分郡鶴崎当山派修驗人別帳(寛政三年)」「寛政三年 豊後般若院書上」「寛政三年 豊後国日出当山修驗一派人別並冥加銀差上帳」「豊後国岡領分当山派修驗院跡相目書上帳」を主体に「境内堂社等書上帳」を補助史料として使用した。「文化元々三年」の欄には、「文化元年 豊後国佐伯帳本般若院人別帳」「文化三年 豊後国速見郡日出袈裟頭蓮華院 頭襟役銀上納覚帳」を使用し、「文政十二年」の欄は「豊前国宇佐郡乙女村 御役銀上納人別帳(文政十二年)」を。「天保十二年」の欄には「豊前宇佐郡 当山派修驗冥加銀上納帳(天保十二年)」を。「明治元々二年」の欄は「天料日田県支配 豊前国宇佐郡当山派修驗冥加上納帳(慶応四年)」「献金冥加銀記録(豊前宇佐郡・明治元年)」「松平主殿頭領分 豊後国東郡明細帳(明治二年)」を使用した。これらの史料はすべて拙編の「大分県日出藩史料」巻二十四〜二十六・「蓮華院文書」に収めてあるので参照されたい。

さて、この表を見ると、天明七年の当山派修驗は豊後国全域と豊後国宇佐郡で六十四院であるのに対し、五年後の寛政

三年では豊後国のみで百四十四院に増加し、特に増加のいちじるしいのは、天台宗修驗の盛んであったといわれている国東半島と大野川流域のなかで岡領であることは注目すべきことである。この現象が、それまで既に存在した修驗者の天台宗より眞言宗(当山派)への転宗によるものか、或いは当山派の開拓によるものかは、今後の研究にまたねばなるまい。目下整理中の「修驗者口上覚書」「醍醐三宝院達書」の整理が進めば、この解決の鍵点となると考えられる。尚、最後にこの表も同文書の整理途上の作成であるので不十分なものであることを附記しておきたい。

〔 〕 日出町佐尾)

